

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 10 月 22 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870103490		
法人名	有限会社 ティーエムコーポレーション		
事業所名	グループホーム すみれの園		
所在地	松山市畑寺三丁目15-8		(電話) 089-913-6026
管理者	吉田 容子		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 8 月 29 日	評価確定日	平成 19 年 10 月 23 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 8 月 11 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 5 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	15.8 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000 円	その他の経費(月額)	13,500 円	
敷金	有()円 ○ 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 8 月 11 日事業所記入)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 80.3 歳	最低	59 歳	最高	95 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	あり	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

四国八十八カ所の寺に近い、静かな住宅地に建てられたホームである。ホームは開設から4年が経ち、落ち着いた佇まいである。職員は利用者の思いを大切にされた支援を心がけ、共に菜園作りやカラオケ等を楽しみ、時には利用者から料理等を教わりながら、ゆったりした日々を送っている。ホームには看護職員も勤務しており、利用者の健康管理や医療面での支援にも力を入れ、訪問リハビリや重度化への対応も可能である。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回の評価をふまえて理念を見直し、地域との交流促進に力を入れはじめ、摂取カロリーの把握を行う等の改善に取り組んでいる。しかし、利用者のサービス向上の視点で、運営者とホームの管理者・職員の話し合いが更に深まることを期待する。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価に全職員で取り組む意義が十分浸透しておらず、限られた職員で評価に取り組んだところがあった。今後は全員で自己評価を行うことを期待する。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

運営推進会議は2か月に1回行われている。討議内容はホームの活動報告に対する意見、地域資源の活用、地域行事への参加、ホーム便りの活用、ボランティア、消防訓練の課題等である。ホームは会議での意見を質向上や運営に活かすよう努めている。今後、会議をより多角的に運営することで行政や地域との交流が一層進むことを期待する。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の意見は来訪時に聞くようにしている。ホームへの苦情・相談の窓口は内部及び外部の公的機関を明記し、家族にも説明している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

地方祭、運動会、夏祭り等の地域行事に参加している。車いすの利用者が、中学生のボランティアの協力で盆踊りに参加し、ともに楽しむこともあった。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名	すみれの園
(ユニット名)	梅干
記入者(管理者)	
氏名	吉田 容子
評価完了日	年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 職員全体で話し合ってきた独自の理念であるが「地域の中で」というのは取り組めていない。 (外部評価) 法人の理念が玄関に掲げられているが、この理念をふまえ、各ユニットに職員で話し合っただけで決めた理念が掲げられている。具体的で、地域の中で暮らすことを意識した、分かりやすい理念である。	※	地域社会との交流ができる取り組みを施設全体で検討している。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 玄関口に掲げているが、日々の理念について職員間で話し合ったり、取り組んだりしていない。また、理念を把握している職員が少ない。 (外部評価) 管理者と職員は、各ユニットの理念を日々の支援と関連づけるよう、心がけている。	※	ユニット内で月に1回のミーティング時に職員全体が把握できるよう、また実際に取り組んでいけるよう話し合いをする。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 家族、地域の人々とのかわりが少ないため理念は浸透していない。		運営推進会議や日々の家族の面会時で情報交換し理解してもらえるよう取り組みを始めている。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近所を散歩している時にあいさつや会話をしたりコミュニケーションをはかっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運動会、夏祭り、地方祭等地域の行事に参加している。 (外部評価) ホームは地方祭、運動会、夏祭り等の地域行事に参加している。祭りの神輿や獅子舞がホームにやってくる。夏の盆踊りに、中学生のボランティアの協力で車いすの利用者も参加して、ともに楽しんでいる。	※	中学生の職場体験の実施の検討、地域清掃参加を希望している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 時々立ち寄られる独居の高齢者の話を聴いて悩みや困っていること、健康状態や生活状況の把握に努めている。	※	老人会等にホーム便りを配布しホームを知っていただき、より多くの地域の高齢者との交流をはかりたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 一部の職員は理解している。外部評価で指摘された項目について改善するよう話し合っているが具体的には取り組めていない。 (外部評価) 評価の意義は概ね理解しているが、十分とはいえない。また、自己評価に全職員で取り組む意義の浸透が不十分で、限られた職員でまとめたユニットがあった。前回の評価の改善にも努めているが、十分ではない。	※	評価にあたり、その意義やねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、さらに自己評価を全職員で取り組むことを期待する。また、利用者の快適な生活に視点を置き、更なる改善に取り組むことを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を始めて3回目なので、まだ報告していない。 (外部評価) 運営推進会議での意見や検討事項をサービスの質の向上に活かすよう努めているが、地域の中でも特に近所の住民が気軽に参加できる会場を設ける等の、幅広い運営面での配慮が今ひとつである。	※ ※	今後の会議で報告し、話し合っていきたい。 今後、ホームの課題や評価等を報告・検討していく上で必要な学習会（ホーム理解の基本となる認知症の勉強会等）を地域の人たちの参加も呼びかけて開催する等の多角的な運営を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 市役所に用事があるとき以外は特に交流はしていない。 (外部評価) 必要な手続きや分からないことを確認する時に市担当者を訪ねている。しかし、ホームの実情やケアの取り組みを伝え、サービスの質向上にともに取り組むまでには至っていない。	※	市担当者とは、必要な連絡を取る以外にも、ホームの実状を伝え、ともにケアの質向上に取り組む姿勢が望まれる。また、地域包括支援センター、公民館活動等とも連携・連動して、サービスの質向上に取り組むことを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 一部の職員は講義に参加し理解しているが理解している職員は少ない。	※	学ぶ機会を月に1回のミーティング等で設け、職員全体で把握できるよう努めたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内では、見過ごすことがないように努めているが、関連法について学ぶ機会がいつものところない。	※	今度高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を作り今まで以上に注意を払い、防止に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書等を利用して説明し、その都度疑問点などをたずねている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見や苦情は気軽に言えるような場を作るように努めている。運営に反映されているとは言えない。		利用者の意見を運営に反映させられるように、職員、運営者と話し合う場を作っていきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会時に近況報告をしたり、毎月1回お便りを送り報告している。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は家族の面会時や介護計画作成・見直しで家族が参加した時に報告している。また、運営法人の総括部門から、毎月ホーム便りや金銭管理状況等を送ることで、利用者の状況を報告している。	※	ホーム便りの作成や金銭管理を、運営法人の総括部門ではなくホームで行うことで、具体的でより身近な利用者の状況が家族に伝わるため、ホームでの作成等についての方策を検討することを期待する。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) その都度対応し、運営者に早急に報告している。 (外部評価) 家族等の意見は面会時や介護計画作成、運営推進会議に参加した時等に聞き、運営に反映させるよう努めている。苦情・相談窓口は内部及び外部の公的機関を明記し、家族等にも説明している。		
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員間で話し合う機会はあるがなかなか運営者と話し合う機会は少なく意見が届いておらず反映されていない。	※	運営者と話し合う場を設けるようにしたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況の変化によってその都度運営者と話し合い職員の確保に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 常に人手不足のため異動が多い(運営者が決定する)が入居者へのダメージを防ぐ配慮はしていない。 (外部評価) 異動は運営者が行ない、比較的異動が少ないユニットと多いユニットがある。異動時の利用者へのダメージを防ぐ配慮は十分とはいえない。	※	利用者や家族にとって、馴染みの職員が継続して支援することが重要であり、職員の異動は最小限が望ましい。職員の交代がある時は採用者と異動者の重複勤務を行いながらケアの方法を確認し合う等、利用者へのダメージ防止の配慮を期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 運営者より指示があった場合又は自主的に研修に参加し努力しているが事業所内への報告や勉強会はしていない。 (外部評価) 職員は外部の研修会に随時参加し、報告書を提出している。研修後、参加者は他の職員に機会をとらえて研修内容を伝えたり、報告書を掲示することで伝達している。内部での学習は、月1回のユニット会議時にミニ勉強会の形で学び合っている。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 初めて運営推進会議の前に進め方を教わりその時他事業所の見学説明を受けたが定期的にはしていない。 (外部評価) 運営法人内の事業所同士の交流はあるが、地域の同業者と交流する機会はない。	※	地域包括センターより同業者との交流があることを知り、参加する予定 同業者ネットワークに加入したり、地域の同業者との交流を持つことで、サービスの質が更に向上することを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 運営者の報告は会議時やメールにて行っているが、細部まで伝わらないためストレス軽減までにはいたっていない。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 勤務状況や努力はそれぞれ個人のレベル差があり、一つの方向をめざすまでにはいたっていない。組織が大きくなり運営者の把握は困難になっている。		現場での話し合いで一つ一つ改善し各自の向上心を引き出せるよう取り組みを検討し運営者に報告細部まで把握してもらえるように努力する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居担当者との面接相談等で入居を決定しているようで現場にはまったく情報はいってこない。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居担当者との面接相談等で入居を決定しているようで現場にはまったく情報はいってこない。		
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居担当者との面接相談等で入居を決定しているようで現場にはまったく情報はいってこない。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居所のアセスメント、他機関からの情報提供も参考に本人家族との会話や生活する中でまずその人を知ることから始める。		相談、入居希望があった時点で入居担当者と現場担当者が本人家族と面談し状況把握その後の事業所内での話し合いをすい決定するシステムがあればと思う。
			(外部評価) 利用者の入居は運営法人の入居担当者が決定している。入居の際には利用者の過ごし方等をできるだけ早く把握して支援するよう心がけている。全員の食事に戸惑う利用者には時間をずらすなど臨機応変な対応を行っている。	※	入居前から馴染みの関係が始まり、利用者が安心してサービスが受けれるよう、入居決定の前段階で、ホームの管理者や職員が加わっての話し合いを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 農業に携わっていた利用者へ、畑の耕し方を教えて頂いて、スタッフと共に作業をしたり、食器拭きや洗たく物たたみ、CDをかけて一緒に唄ったり、タオル体操をしている。		
			(外部評価) 職員は利用者とともに畑仕事、食器拭き、洗濯物たたみ、タオル体操等を楽しみながら行っている。時には野球や戦争の話を開いたり、料理法、漢字等を利用者から教わることもある。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ケアプランのサインをしてもらおう様、電話連絡して、面会に来て頂いたり、きっかけ作りに努めている。また、面会時や月1回のお便りで近況報告を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 会話ができる、顔をあわせられるような機会を作る健康状態の報告やケアプランの説明確認のため面会ができるように連絡調整している。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ケアプランのサインを頂くため、電話連絡をして、面会に来て頂けるよう努めている。利用者の同級生が施設に遊びに来て頂いたり、同窓会の参加の支援も行っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) タオル体操の参加の声かけをして、出来る限り全員で行うようにしている。また、10時、15時頃にコーヒータイムを設けて、リビングでみんなと過ごしコミュニケーションをはかれるよう支援している。		
32		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他の場所に移っても面会したり、状況を聞いたりスタッフに近況を伝えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望を重視しケアプランに反映実践できている。 (外部評価) 利用者がホームの会議に参加した時や普段の会話から一人ひとりの思いや希望を把握し、支援するよう努めている。		強い希望があればオプションも取り組みたい。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントの聞き取り、日々の利用者との会話の中から聞き取ったり、面会時家族の方に尋ねたりして把握に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) なるべく今までの生活を継続できるよう努めているが困難な場合が多い。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、その他家族の希望はあまり出ない、利用者本煮の計画とはいえない。		本人、家族と接する機会を多く持ち、しっかりしたアセスメントをしてその人らしい生活を送れるよう計画したい。
			(外部評価) 利用者毎に担当者を決め、担当者が中心になって介護計画を作成している。計画作成時は、職員だけでなく利用者や家族もできるだけ参加し、その都度家族のサインをもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 変化に応じて見直しを行っている		
			(外部評価) 月1回のケアカンファレンスで介護計画を見直している。利用者の状況に変化が生じた場合は、その都度、見直すことにしている。利用者や家族にもできるだけ参加してもらっている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日実践の有無、できたら結果はどうだったか、できない場合は、理由を記録し評価してモニタリングする。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 希望社や必要者には週に一回の訪問リハビリを行っている。		※
			(外部評価) 利用者の急な外出希望、受診時の送迎、在宅酸素療法に伴うケア等の多機能性を活かした支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議で民生委員、消防団、市職員の方に出席していただき助言を頂いている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 他のサービスは特に必要なく利用していない。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 入居担当者との協働はあるようだが現場には協働していない。		
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望を訊き対応している。 (外部評価) 利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。利用者別の受診ノートがあり、受診の都度記入している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) かかりつけ医の助言や家族の希望、他の医療機関の紹介によって治療を受け支援している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 情報交換を行い、日々健康管理に努めている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院中何度か面会し担当看護師、医師に情報を聞いている、退院時にはカンファレンスに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 医師の説明を家族とともに訊き全員で共有できている。 (外部評価) 重度化や終末期については訪問診療、訪問看護で利用者や家族の意向に沿った対応を行なう体制がある。ホームには看護師も勤務しており、看取り介護の手引もある。	※	看取り介護の手引は介護のあらましが要点的にまとめられ、職員も共有しているが、実際的な内容が少ない。重度化や終末期の対応に向け、法人の責任者と管理者・職員とで細部にわたる話し合いを行ない、実践に役立つ具体的なマニュアル作成を期待する。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) かかりつけ医、家族と話し合い協働しているがいまだ終末期に取り組んだことがない。	※	終末期を行ったことのあるグループ施設の話をきき、それを参考にして今後検討していきたい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 家族の希望が強く、利用者本人の意向はあまり考えられていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉使いには注意し対応している。記録等は施設外に持ち出さないようにし管理しているが時に詰め所などで保管する部屋もなく見ようと思えば手の届く場所にある。 (外部評価) 職員はトイレ誘導の確認を利用者の耳元で行ったり、個人情報を意識した記録類の管理を行っている。職員は守秘義務についての誓約書を提出している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 自己決定を大切にながら希望にそえるような支援を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の生活パターンを把握した上で個々の記録にそった支援をしている。 (外部評価) トイレ誘導や朝の起床時間等は利用者のペースを大事にした支援を行っている。利用者の、その日の買物や入浴も希望に沿って支援するよう心がけている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 本人の希望にあわせて髪を切る《理美容室に行く、スタッフが切る》入浴時毛染めをする等に支援を行っている。		近所で訪問してくれる美容室があるため希望があれば体験してもらえよう支援したい。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事前後のテーブル拭きやはし、スプーン等の準備を職員と一緒にしている。 (外部評価) 利用者は自宅で使用していた箸、茶碗等を使っており、食事中は職員と話をしたり、テレビを見たりしている。職員は利用者の力量を大事にしながらかつて介助を行っている。食事の準備、片付けも利用者とともにしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 一人一人の嗜好を把握し、食材注文や買い物をしている、たばこも喫煙所にて吸っている方もいる。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄管理表を使用し、パターンの把握 個々にあわせてトイレ誘導介助している。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 希望に合わせてその時々状況に応じた対応をしている。 (外部評価) 体調に合わせて入浴日を変更したり、午前中に入浴したり、利用者の希望に合わせて入浴支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 個々に応じて対応している。天気の良い日は布団を干したりシーツ交換を行ったりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 利用者の興味のあること、得意なことを把握した上でその利用者にあった役割、気晴らしの支援をしている。 <hr/> (外部評価) 歌を唄ったり、体操をしたり、食事の片付け、畑作業、洗濯物干し等の楽しみや役割を一人ひとりの力に応じて支援している。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理のできる利用者にはおこずかいをある程度所持できるように支援している。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 希望時には買い物や散歩に出かけられるようできる限り対応している。 <hr/> (外部評価) ホームの周辺や公園への散歩、買物、近くの温泉やお寺、カラオケ喫茶へ出かける等の希望に沿った外出支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 月に一度の遠出のおでかけの計画を立て外食やお花見、動物園などに行っている。希望があれば家族とともに自宅に帰ったりお出かけしたりしている。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に立ち寄っていただけるようアットホームな雰囲気而努力している。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) やむをえない場合は、家族に説明し同意を書面で得ている。また、身体拘束しない方向に持って行くようにその都度職員間で話し合いケアしている。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 夜勤帯、職員が一人の場合のみ玄関に鍵をかけている。 (外部評価) 管理者や職員は鍵をかけない生活の意義を承知していて、居室や日中の玄関に鍵はかかっている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 定期的な巡回、特に注意の必要な利用者は細めに字巡回をおこない、安全に努めている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) その都度状態を把握しながら職員や家族と話し合い危険を防ぐ取り組みをしている。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) カンファレンスや日々の申し送り等で職員間で対応策を話し合い取り組んでいる。	※	事故防止には取り組んでいるが行方不明、火災等のマニュアルが特にないため今度作成したい。
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 特に定期的にしていない。	※	月に一度のユニット会議で勉強会をおこない、すべての職員が対応できるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防、避難訓練を年に1～2回行っている。地域の人々の協力は運営推進会議で働きかけている。 (外部評価) 防災訓練を年に1～2回行っている。避難場所は公園となっているが、ホーム近くの避難場所の確保が不明瞭である。	※	防災訓練を夜間想定で行ったり、近所の住民の参加を得て、いざという時の協力が得られるような訓練を期待する。また、避難場所はいきなり公園まで誘導は難しく、ホーム近くの一時的避難場所の確保が望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 契約時に説明、入居後は変化に応じて状態報告予測されるリスクについても、その都度納得されるよう説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 日々の生活の中で体調管理を行い、申し送りやカンファレンスで情報交換をし全スタッフが共有できている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示や文献により理解できている与薬時は二人で確認し服薬介助している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 排泄管理表や個人記録によりチェック、水分摂取、運動食事摂取量、性状等の観察により予防している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 歯磨き、食欲を促し自力でできない場合は介助や口腔清拭を行っている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量、水分量のチェックを行い水分摂取量の少ない人に対して好きな飲み物や家族に協力を得て、目標に近づけるよう支援している。 (外部評価) 運営法人から送られてくる、バランスを考慮しカロリー計算された献立表を基本に食事を提供している。利用者の状態に合わせ、きざみ食やミキサー食も準備され、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。食事や水分の摂取量は毎回チェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 予防はしているが、施設独自のマニュアルは作成していない。	※	職員全体で実行できるようなマニュアルを作成したい。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) まな板、ふきん、流し台等1日1回はハイターで消毒している。賞味期限に気を付け野菜等、使い切るようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関周りには花を植えたり季節の花飾ったりしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花をリビングに飾ったり季節に合った掲示を廊下に飾っている。 (外部評価) 居間は明るく、見やすい時計やカレンダーを置いている。その他の共用空間も不快な音や匂いもなく、清潔で居心地の良い空間である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ロビーに喫煙所を設けたり、廊下にソファを設置してゆっくりと過ごすことができるよう配慮している。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に自宅で使っていた家具を持ってこられている。 (外部評価) 居室は利用者が希望すれば、畳の間にすることも可能である。室内には利用者の使い慣れたベッド、テレビ、時計などが置かれ、居心地良い部屋となっている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) その都度窓を開け換気を行ったり、温度調節等利用者の状態に応じて対応している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 安全に配慮しながら利用者の身体状況を把握した上で環境作りを工夫できている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 居室には写真つきの名札を置いたりトイレには遠くでもみやすいように明示している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 畑で野菜作りをしており利用者と一緒に収穫や水遣りを行っている。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者の思を大切に、希望を聞き対応している。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	15時のおやつ時に全員集まる時間があり、談笑したりテレビをみたりしてコミュニケーションをはかっている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意思表示が難しい利用者は、職員の一方的な支援になりがちである。なるべくその利用者にとってどうしたらよいかを考えながら支援している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の興味あることや得意な場面の時(レクリエーション時、歌を歌うなど)生き生きしている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	希望時なるべく対応している。あまり希望がなく屋内で過ごしたい利用者が多い。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のバイタルチェックを行い一人ひとりの健康状態の把握に努めている。また月に2回往診を行っている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	(自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の要望を大切に、その都度対応している。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己評価) 1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族とのかかわりが薄い利用者が多く、連絡が取れないところがあるが、面会時には状態を報告して情報交換している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	利用者の同級生が面会にこられている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③あまり増えていない 4 全くいない	まだ実施して3回目なので浸透していない。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	いろいろと問題が多く、話し合う場もない。 相談できる相手がおらず解決策がみあたらない。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	利用者の意向にそったサービスを行うように努めてはいるが利用者の真意はわからない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族がたずねたことがないので分からない。また、家族もなかなか意向をいいにくいようである。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム すみれの園

(ユニット名) 抹茶

記入者(管理者)

氏名 吉田 容子

評価完了日

年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) その人らしく暮らしていけるよう支援するという内容はあるが、地域の中でという理念は作られていない。 (外部評価) 法人の理念が玄関に掲げられているが、この理念をふまえ、各ユニットに職員で話し合って決めた理念が掲げられている。具体的で、地域の中で暮らすことを意識した、分かりやすい理念である。	※	現在の理念の中に、地域交流によって実現できるものはないか職員で話し合っている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 開設時に管理者によって作成された理念を、ホーム玄関口に掲げているが、理念について話し合うことは少ない。 (外部評価) 管理者と職員は、各ユニットの理念を日々の支援と関連づけるよう、心がけている。	※	ユニット内で、理念にそった支援ができるように具体的な実践内容を考えたい。
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 理念を目的のつく所に掲げてはいるが、家族の方や地域の方に浸透していない。	※	運営推進会議等で、事業所の取り組みを伝えていきたい。
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 日常の散歩や買い物時に挨拶や会話をし、困っていることはないかお互いに声かけあっている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地方祭・運動会・夏祭り等、地域行事に参加。中学生の職場体験に協力している。 (外部評価) ホームは地方祭、運動会、夏祭り等の地域行事に参加している。祭りの神輿や獅子舞がホームにやってくる。夏の盆踊りに、中学生のボランティアの協力で車いすの利用者も参加して、ともに楽しんでいる。	※	地域清掃参加を町内に希望している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) ホームに立ち寄られる独居老人の方に、家で困ったことがあれば言ってくださいと声かけている。	※	一部の高齢者の方だけでなく、老人会等に便りの配布をして、交流しながら地域貢献に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 職員全員が自己評価作成に参加した。昨年度の評価結果について、年間を通して改善に取り組んだ。 (外部評価) 評価の意義は概ね理解しているが、十分とはいえない。また、自己評価に全職員で取り組む意義の浸透が不十分で、限られた職員でまとめたユニットがあった。前回の評価の改善にも努めているが、十分ではない。	※	評価にあたり、その意義やねらいについて運営者、管理者、職員で話し合い、さらに自己評価を全職員で取り組むことを期待する。また、利用者の快適な生活に視点を置き、更なる改善に取り組むことを期待する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では報告をしていない。 (外部評価) 運営推進会議での意見や検討事項をサービスの質の向上に活かすよう努めているが、地域の中でも特に近所の住民が気軽に参加できる会場を設ける等の、幅広い運営面での配慮が今ひとつである。	※	前回の運営推進会議（3回目）で、町内の方から、家族の方から出た要望や意見を話し合ってみてはという意見をいただき、次回の議題の一つにしたいと考えている。 今後、ホームの課題や評価等を報告・検討していく上で必要な学習会（ホーム理解の基本となる認知症の勉強会等）を地域の人たちの参加も呼びかけて開催する等の多角的な運営を期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 不明なことがあった時、職員が市役所に出向いていき、各担当者に相談している。 (外部評価) 必要な手続きや分からないことを確認する時に市担当者を訪ねている。しかし、ホームの実情やケアの取り組みを伝え、サービスの質向上にともに取り組むまでには至っていない。	※	市担当者とは、必要な連絡を取る以外にも、ホームの実状を伝え、ともにケアの質向上に取り組む姿勢が望まれる。また、地域包括支援センター、公民館活動等とも連携・連動して、サービスの質向上に取り組むことを期待する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、制度を利用する予定、または必要な方はいない。	※	今後必要な時に、活用支援できるように学んでおきたい。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会はないが、見過ごされることがないように注意を払っている。	※	今後、高齢者虐待防止関連法案について学んでいきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 重要事項説明書やパンフレットを利用して説明を行い、不安に思っている点に対しては、各専門担当者に相談し説明している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者より意見があった場合は、職員全員で話し合っているが、運営に反映されているとは思えない。	※	利用者さんの意見が反映されるよう、運営者とも話していきたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 毎月1回、利用料明細書を郵送する時に、お便りという形で個々の報告をしている。 (外部評価) 利用者の暮らしぶりや健康状態は家族の面会時や介護計画作成・見直しで家族が参加した時に報告している。また、運営法人の総括部門から、毎月ホーム便りや金銭管理状況等を送ることで、利用者の状況を報告している。	※	ホーム便りの作成や金銭管理を、運営法人の総括部門ではなくホームで行うことで、具体的でより身近な利用者の状況が家族に伝わるため、ホームでの作成等についての方策を検討することを期待する。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族等からの意見・不満苦情はその都度対応し、運営者にも報告している。 (外部評価) 家族等の意見は面会時や介護計画作成、運営推進会議に参加した時等に聞き、運営に反映させるよう努めている。苦情・相談窓口は内部及び外部の公的機関を明記し、家族等にも説明している。	※	家族の意見が運営に反映されるよう、それに対しての職員の意見も共に報告していくようにしたい。
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 意見や提案を聞く機会は設けてある。時間はかかるが反映されている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 状況変化に対応できるように、事前に勤務調整をおこない、職員を確保している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 移動は少ない為、利用者へのダメージはないと思う。移動になった職員も、時々訪ねて利用者と触れ合っている。 (外部評価) 異動は運営者が行ない、比較的異動が少ないユニットと多いユニットがある。異動時の利用者へのダメージを防ぐ配慮は十分とはいえない。	※	利用者や家族にとって、馴染みの職員が継続して支援することが重要であり、職員の異動は最小限が望ましい。職員の交代がある時は採用者と異動者の重複勤務を行いながらケアの方法を確認し合う等、利用者へのダメージ防止の配慮を期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内の配布があり、研修後はレポートをボードにはりだしている。 (外部評価) 職員は外部の研修会に随時参加し、報告書を提出している。研修後、参加者は他の職員に機会をとらえて研修内容を伝えたり、報告書を掲示することで伝達している。内部での学習は、月1回のユニット会議時にミニ勉強会の形で学び合っている。		
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 法人内での交流の機会はあるが、地域の同業者との交流はしていない。 (外部評価) 運営法人内の事業所同士の交流はあるが、地域の同業者と交流する機会はない。	※	他施設で行なっている、勉強会出席や交流会を検討したい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 定期的ではないが、親睦会等を行なっている。ユニット単独でも行っている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 職員の向上に繋がる希望は、運営者に前向きに協力してもらっている。	※	職員個人の長所を他の職員と共に引き出し、各自が向上心をもてるように努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があった職員は、ユニット会議で議題にし、話し合っている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談があれば家族と共に考えているが、全ての家族が相談できているかはわからない。	※	相談しやすいような手段（ポストや自由に書き込めるノートの設置）を検討したい。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 各専門スタッフに相談し、他のサービス利用の対応をしている。（入居アドバイザー・看護師・歯科・栄養士・デイサービススタッフ・相談員・市職員）		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) サービスを利用する前に、事前に本人に細かく説明し安心して利用できるようにしている。 (外部評価) 利用者の入居は運営法人の入居担当者が決定している。入居の際には利用者の過ごし方等をできるだけ早く把握して支援するよう心がけている。全員の食事に戸惑う利用者には時間をずらすなど臨機応変な対応を行っている。	※	入居前から馴染みの関係が始まり、利用者が安心してサービスが受けられるよう、入居決定の前段階で、ホームの管理者や職員が加わっての話し合いを期待する。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 一緒に過ごす時間をなるべく多くとり、料理方法を聞いたり昔の遊びを教えてもらったりしている。 (外部評価) 職員は利用者とともに畑仕事、食器拭き、洗濯物たたみ、タオル体操等を楽しみながら行っている。時には野球や戦争の話の聞いたり、料理法、漢字等を利用者から教わることもある。	※	理念に掲げている、「誰のおかげで今日の自分があるか」を常に忘れずに支援していきたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 疎遠になりがちな家族に来てもらえるきっかけ作りに努めている。本人と家族の間で問題があった時、中立的立場に立つように努めている。	※	利用者の様子や、それに対してのスタッフの対応を細かく伝え、一緒に支えていく関係を築きたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ほとんどが本人と家族の関係は良好であるが、面会のない家族に対しては、利用者の気持ちを伝えていただけるように取り組んでいる。	※	家族に行事の参加をしていただけるように取り組みたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力を得て、馴染みの場所に出掛けたり、友人との交流を大切にしてもらっている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) お手伝いをしていただく時は声かけをして、利用者同士の関わりが持てるようにしている。	※	共通する趣味などがないため、職員が間に入って関わりを支援したい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 開設時より4年間退居利用者は居ない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ユニット会議の時に出席してもらい、希望・意向の把握に努めている。 (外部評価) 利用者がホームの会議に参加した時や普段の会話から一人ひとりの思いや希望を把握し、支援するよう努めている。	※	意思の疎通が困難な方については、生活の中から見出せるよう努めたい。
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントの確認や、家族の話し合いを聞き、問題があった時に対処の参考にしている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 小さな異変についても話し合い、全員が把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 本人と話をして計画をたてることはできているが、家族との話し合いの場は少ない。	※	家族との話し合いの場をもっと作るように検討したい。
			(外部評価) 利用者毎に担当者を決め、担当者が中心になって介護計画を作成している。計画作成時は、職員だけでなく利用者や家族もできるだけ参加し、その都度家族のサインをもらっている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 期間によらず、変化が生じた場合は見直している。	※	もっと、関係者との話し合いの場を作っていきたい。
			(外部評価) 月1回のケアカンファレンスで介護計画を見直している。利用者の状況に変化が生じた場合は、その都度、見直すことにしている。利用者や家族にもできるだけ参加してもらっている。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日、実践結果を個別記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 現在は訪問看護・訪問リハビリの利用のみである。	※	同事業所関連の訪問や、行事に積極的に参加したい。
			(外部評価) 利用者の急な外出希望、受診時の送迎、在宅酸素療法に伴うケア等の多機能性を活かした支援を行っている。	※	多機能性を活かした支援とは利用者や家族の暮らしの継続性を守る柔軟な支援であると捉え、少しずつ変化する利用者や家族の状況に応じた更なる支援を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 運営推進会議に、民生委員・消防団・市職員の方に出席していただいて、助言をいただいている。	※	中学校の体験学習に協力したことがあるが、定期的に協力するとの検討をしている。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 本人の意向がない。 他のサービス利用の支援はしていない。	※	今後、運営推進会議で議題にあげたい。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在、本人の意向はない。 地域包括支援センターとの協働はできていない。	※	今後、運営推進会議で議題にあげたい。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 支援できている。緊急時の対応も、本人・家族の希望を大切にしている。 (外部評価) 利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医の受診を支援している。利用者別の受診ノートがあり、受診の都度記入している。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 必要時には家族と相談し、同好の上専門医を受診している。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職と介護職は常に話し合い、日常の健康管理は全員で行なっている。	※	救急時のマニュアルはしてあるが、前回改善を指摘された救命講習の受講は、施設内では時間的に難しく、個人的に受講したものもある。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院中は何度か訪ね、担当看護師等に情報を聞いている。退院時にはカンファレンスに参加している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 大まかな概要はあるが、全員で方針を共有できてはいない。 (外部評価) 重度化や終末期については訪問診療、訪問看護で利用者や家族の意向に沿った対応を行なう体制がある。ホームには看護師も勤務しており、看取り介護の手引もある。	※	法人にマニュアル作成してもらい、方針を共有したい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 今後に備えての検討はされているが、方針が共有されていない為、家族からの質問に答えられないこともある。	※	法人にマニュアル作成してもらい、方針を共有したい。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 住み替えはない。	※	現在住み替えはないが、情報交換はしておく必要がある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 言葉かけや対応は職員同士で振り返っている。記録・個人情報は管理している。 (外部評価) 職員はトイレ誘導の確認を利用者の耳元で行ったり、個人情報を意識した記録類の管理を行っている。職員は守秘義務についての誓約書を提出している。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 意思表示が難しい利用者に対しては、職員主導になりがちである。	※	時間をかけながらも、自己決定を大切にしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の1日の流れを把握し、入浴・買い物等、できる限り希望に添えるように努めている。 (外部評価) トイレ誘導や朝の起床時間等は利用者のペースを大事にした支援を行っている。利用者の、その日の買物や入浴も希望に沿って支援するよう心がけている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 自分で着替えることが困難な方は、介助し、身だしなみを整えている。美容院は着いていただいている。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立の中に、利用者の好きなものを取り入れている。できる方には準備や片付けを手伝っていただいている。 (外部評価) 利用者は自宅で使用していた箸、茶碗等を使っており、食事中は職員と話をしたり、テレビを見たりしている。職員は利用者の力量を大事にしながら介助を行なっている。食事の準備、片付けも利用者とともにしている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ご家族が持ってこられたり、買い物に行って買ってきたりして、好きなものを食べていただいている。		
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄管理シートをチェックし、時間をみてトイレ誘導を行なっている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 必ずしも希望に沿うことはできないが、個々の入浴パターンを把握し、できる限り入浴を楽しんでいただけるように努めている。 (外部評価) 体調に合わせて入浴日を変更したり、午前中に入浴したり、利用者の希望に合わせた入浴支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) ベッド周りの環境を整え、(シーツ交換・ふとん干し) ゆっくり、気持ちよく休めるように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 食事の片付け・洗濯物を干す作業・たたむ作業を手伝っていただき、役割を大切に、音楽をかけたリ体操をしたりして気分転換をしていただいております。 (外部評価) 歌を唄ったり、体操をしたり、食事の片付け、畑作業、洗濯物干し等の楽しみや役割を一人ひとりの力に応じて支援している。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理できる方には所持していただいています。できない方は、ご家族から預かりスタッフが管理しています。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 散歩・日光浴・買い物など戸外に出られる機会を作っている。 (外部評価) ホームの周辺や公園への散歩、買物、近くの温泉やお寺、カラオケ喫茶へ出かける等の希望に沿った外出支援をしている。		
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 年に数回、お出掛けの計画をたて、楽しんでいただけるように努めています。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話・手紙は自由にやり取りをおこなっていただいております。孤独感を感じないように対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 個室なので、ご家族の方が来られてもゆっくり話をさせていただきます。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) ベッドより転落する可能性のある方は、ご家族に説明し、許可を得てベットの柵をつけております。具体的な行為について、正しく理解できているかどうかはわからない。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 施錠はしておりません。 夜間のみ、防犯の為玄関を施錠。 (外部評価) 管理者や職員は鍵をかけない生活の意義を承知していて、居室や日中の玄関に鍵はかかかっていない。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 特に注意が必要な方の巡回は、頻繁にするよう心がけています。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 誤飲の恐れのあるものは、利用者の方の手の届かないところに置いている。台所に利用者の方が来られる場合は、声かけ・見守りをし、危険がないよう注意しています		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人の状態に応じて、注意が必要なことを把握し、それぞれに対応しています。		
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行なっております。	※	定期的に訓練を行なう必要がある。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 消防訓練などをして、利用者やスタッフが避難できる方法を身につけている。	※	地域との交流が少ない為、交流を深め、協力を得られるようにしたい。
			(外部評価) 防災訓練を年に1～2回行っている。避難場所は公園となっているが、ホーム近くの避難場所の確保が不明瞭である。	※	防災訓練を夜間想定で行ったり、近所の住民の参加を得て、いざという時の協力が得られるような訓練を期待する。また、避難場所はいきなり公園まで誘導は難しく、ホーム近くの一時的避難場所の確保が望まれる。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価)		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 小さな異変があったら、バイタルサインを測定して、看護師に報告している。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬後の症状・変化は申し送り等の中で確認している。		
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の排泄の有無のチェックしており、意思表示の困難な方については、時間をみてトイレ誘導を行い、自然排便ができるように支援している。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活パターンに合わせて、口腔内の清潔を維持している。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量を毎日チェックしており、水分があまり摂れていない方は果物で補ってもらっている。		
			(外部評価) 運営法人から送られてくる、バランスを考慮しカロリー計算された献立表を基本に食事を提供している。利用者の状態に合わせ、きざみ食やミキサー食も準備され、一人ひとりの状態に応じた支援を行っている。食事や水分の摂取量は毎回チェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取組みがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 毎朝、塩素系の洗剤で椅子・机・手すり・トイレを拭き、消毒を行なっている。トイレと室内の清掃は毎日行なっています。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 夜、まな板・ふきん等、台所用品を毎日ハイターにつけている。入居者の方のエプロンもハイター等で洗うようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関にはご家族の方が持ってこられた、季節感のあるお花が飾られています。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掲示板などに、季節を感じれるものを飾っている。（手作り） (外部評価) 居間は明るく、見やすい時計やカレンダーを置いている。その他の共用空間も不快な音や匂いもなく、清潔で居心地の良い空間である。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間の中に長いすがあり、テレビなど自由に見られる場所がある。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 長年使われていた家具などを置いて、居心地よく過ごしていただいています。 (外部評価) 居室は利用者が希望すれば、畳の間にもすることも可能である。室内には利用者の使い慣れたベッド、テレビ、時計などが置かれ、居心地良い部屋となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 毎日空気の入替えをし、快適に過ごせるように配慮している。温度調節は、利用者の方の体調や希望にあわせている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 車椅子を使用されている方が半数いるので、廊下などには移動の妨げにならないようスペースを開けている。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 外周に畑があり、季節の野菜などを植えています。秋には芋ほりをしています。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	意思表示ができない方の意向が掴めているかわからない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	1日に数回リビングに集まる時間があり、ビデオを見たり歌をうたったりしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意思表示ができない方の意向が掴めていないが、食事・入浴以外は自由に過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	要望がある方に対する支援は喜ばれるが、特に趣味のない方、意思表示が困難な方へは一方的な支援になりがち。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	買い物等、希望があれば一緒に行くが、お墓参り等困難な場合は年に1～2回にとどまる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	月2回の往診(協力病院) 必要に応じて、週3回の訪問リハビリ。 普段はその都度看護職が対応している。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	帰宅願望がある方は、散歩したり電話で家族の声を聞いてもらったり、買い物の希望があれば一緒に行なっている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ①ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	家族からのいろいろな悩みや相談等を真剣に聞いて対応。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	現在訪ねて来られる方はいるが、もっとたくさんの方に立ち寄ってもらえるよう、老人会へのお便りの配布等、検討段階である。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ②少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	2ヶ月に1回、運営推進会議を行なうにしたがって、関係が深まり、決められた時間会話が途切れることなく、貴重な意見をいただいている。
98	職員は、活き活きと働いている	(自己 ①ほぼ全ての職員が 評価) 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	問題がありストレスを感じている時は、職員全員で話し合い、気持ちの切り替えをしている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	意思表示ができない方の意向が掴めないので全てとはいえない。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	(自己 1 ほぼ全ての家族等が 評価) 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	家族からのいろいろな悩みや相談等を真剣に聞いて対応。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

- ・個々に合った衣食環境を中心に、居心地の良さを大切にしています。
- ・ケアプランに沿った支援を心がけています。